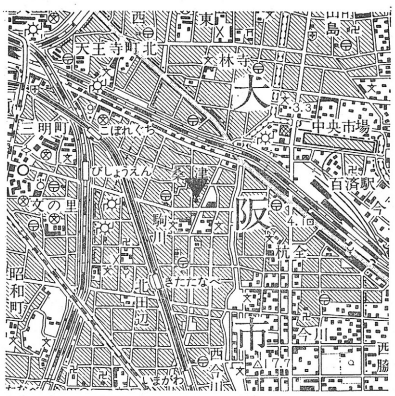
大阪・桑津遺跡

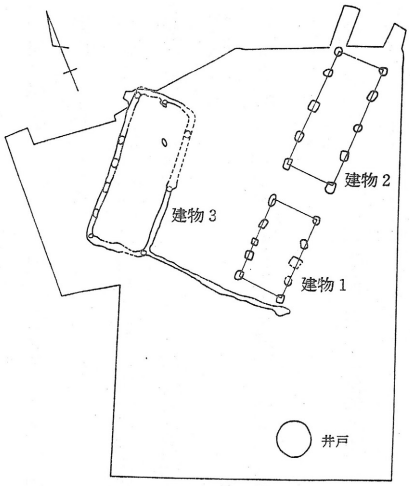
1　所在地　大阪市東住吉区桑津四丁目
2　調査期間　一九九一年（平3）六月～八月
3　発掘機関　㈶大阪市文化財協会
4　調査担当者　高橋　工
5　遺跡の種類　集落跡
6　遺跡の年代　縄文時代～江戸時代
7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

桑津遺跡は上町台地の東縁に位置し、現在の大阪市東住吉区桑津町・駒川町・西今川町にかけての一帯、南北八〇〇m、東西六〇〇mの範囲をもつ。遺跡の南西部の近鉄北田辺駅周辺には田辺廃寺の存在が想定されており、飛鳥時代から奈良時代の瓦が出土している。また、北西二・三kmには四天王寺がある。

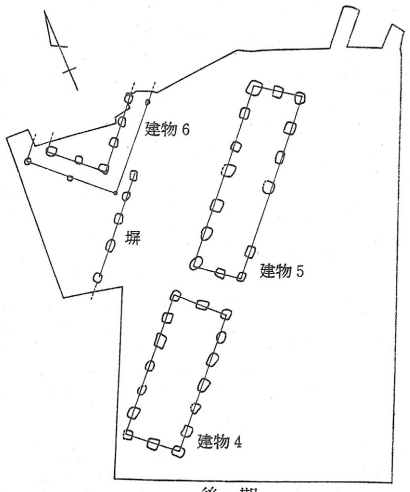
桑津遺跡では一九三七年に京都大学と大阪府によっ



（大阪東南部）



前　期



後　期

遺構概略図

0　10　20

て初めて本格的な発掘調査が行なわれ、弥生時代中期の遺構・遺物が発見されている。その後は㈶大阪市文化財協会を中心に発掘調査が行なわれてきており、やはり弥生時代中期の集落遺構や方形周溝墓と、同期の遺物が多く発見されてきたが、今回のような飛鳥時代の遺構の検出例は未だ少数である。

今回の調査は民間のマンション建設に先立つもので、調査面積は約七二〇㎡である。地表下約四〇㎝で層厚約一〇㎝の中世耕作土となり、その直下で地山となる。遺構が検出されたのは耕作土層の基底面であることから、遺構は上面をかなり削平されていると考えられる。おもな検出遺構は、古墳時代後期の溝、飛鳥時代の掘立柱建物群と木簡を出土した井戸などである。

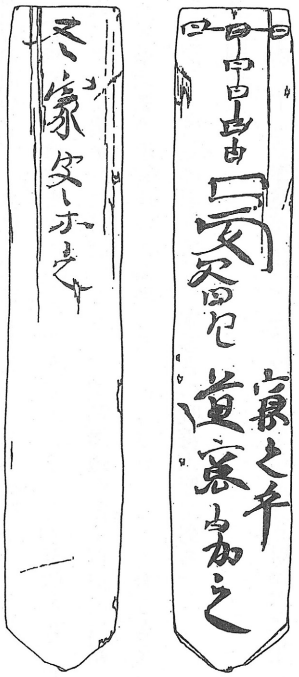
掘立柱建物群は、布掘り掘形をもつものを含む掘立柱建物六棟と塀と考えられる一本柱列からなる。これらは建物の方位と重複関係から三棟ずつ二時期（前・後期）に分れて存在したと考えられる。建物群の全容が判明していないので確定できないが、布掘り掘形をもつ建物三と庇を巡らせた建物六は中心建物の可能性がある。柱穴の掘形の規模は六〇～九〇㎝であるが、柱痕跡はいずれも最大で二〇㎝と小さい。

後期掘立柱建物群の時期は、一本柱列の掘形から出土した須恵器杯から七世紀後半を遡らない。前期の建物三の掘形に取付く溝から出土した須恵器杯は七世紀前半のものである。一方、木簡が出土した井戸は、重複関係から六世紀後半の土器を出土した溝より新しく、廃絶時に埋め戻された土に含まれていた最も新しい土器は七世紀前半代のものである。このことから、井戸は前期の掘立柱建物群に伴い、その廃絶と同時に埋め戻された可能性が強い。したがって、この埋め戻し土から出土した木簡には七世紀前半の年代が与えられる。

8　木簡の釈文・内容

(1)　「　　募之乎
・（符籙）　文田里　道意白加之」
・「各家客等之　」　216×39×4　051＊

下端を削り取って鈍く尖らせてある。「募之乎」の周辺にはうすく墨痕らしいものが見え、側面から見るとこの部分の厚さが他よりやや薄くなっていることから削り取られた文字があったらしいが、



字数や何が書かれていたかはわからない。

釈読にあたっては、国際仏教大学の藤沢一夫氏、奈良大学の水野正好氏、大阪大学の東野治之氏に検討をお願いしたが、三氏の間で異論のない案は得られず、右の釈文は藤沢氏による案である。

上に「日」を線でT字形に結んだ符籙、それに続いて「安」を崩したような文字が書かれており、ここまでが符籙と考えられる。「文田里」は地名らしいが、「欠田里」かもしれず、地名ではなく、「鬼四郎」の可能性もある。「道意」「白加」はそれぞれ人名と考えられるが、「由加之」（ゆかし）と万葉仮名で読む意見もある。「道意白加」が人名である場合は「之」は、意味の上では読まない置字のような用法ということになる。また、「白加」は『日本書紀』崇峻元年是歳条に「百済国遣恩率首信、徳率蓋文（中略）、画工白加」とみえ、同一人物かは別として、百済から渡来した画工の名に同名の者がある。この「白加」は「元興寺塔露盤銘」では「百加」と記されている。「募之乎」の「之乎」も意味の上では読まない字である。「募」は左の「意」と同字とする意見もある。「客等之」は「皮々等之」（ひひとし）と万葉仮名で読む意見もある。この場合「皮々等之」は、藤原宮跡出土の典薬寮関係の木簡に「皮々」と記したものがあることから薬物名である可能性もある。

東野氏のご教示によれば、七世紀の百済風の書体と考えてもよかろうということである。また、符籙のある面の文字は肉太で力強く、他方の面の文字は繊細で、書き手の異なる可能性がある。

意味の上では読まない「之」を多く用いることや書体から、渡来人によって書かれた可能性もあり、遺跡周辺が古く百済郡に属し、渡来系氏族の田辺氏の本拠地であったとされることと合せ考えると興味深い。管見の限りでは日本最古の呪符木簡である。

9　関係文献

高橋　工「桑津遺跡の掘立柱建物群」（大阪市文化財協会『葦火』三四号　一九九一年）

高橋　工「桑津遺跡から日本最古のまじない札」（大阪市文化財協会『葦火』三五号　一九九一年）

（高橋　工）